

平成 25 年 7 月 11 日

20 万分の 1 レベル等小縮尺データの対応について

1. 趣旨

20 万分の 1 地勢図・100 万分の 1 地図や地勢図をもとにベクトル化したデータ等の小縮尺地図（データ）は、日本全体や地域全体など広域を俯瞰する役割を持っている「基本図」である。

しかし、これまで小縮尺地図における位置精度は、見た目を重視する観点から編集されてきたため、2 万 5 千分の 1 地形図やその後継の電子国土基本図との整合性が確保されておらず、地図情報のデジタル化普及の中で、さまざまな情報を重ね合わせて利用するには使いづらい状況であった。

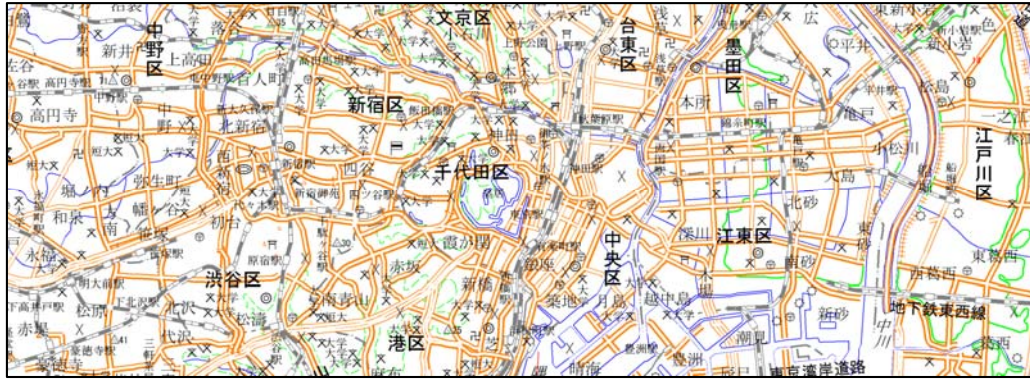
このため、基本図である電子国土基本図から小縮尺地図データを作成することにより、位置精度等の整合性を確保し整備・更新していくこととした。一方で、地図表現については、これまでの地図としての利用者に使いやすいものとするため、従来の地図等とほぼ同様の表現とすることが望ましい。

これらの考え方のもと、電子国土基本図のデータをもとにしつつ、新たに 20 万及び 100 万レベルのデータを「国土広域情報」（仮称）として、さらにそれを地図としたものを電子地形図 20 万（仮称）として、新たに整備し提供する取り組みを準備中である。

2. 電子国土基本図からの取得方法の考え方

- 道路について
 - 防災等への活用を考えると、ネットワークを示すこと、規模の大きな道路を記載することが望ましいことから、全国共通の基準としては、都道府県以上+4 車線以上を表示する。
 - 一方で、上記の道路だけでは、つながりが切れているものなど、ネットワーク的にわかりにくい内容となっていることが想定される。そのため、孤立した道路がないよう、必要な部分において 2 万 5 千分の 1 の電子国土基本図の内容から追加する。（注：今後作業を予定しており、資料 4 - 2 にはまだ反映していない）

注）二車線を全て入れると、東京都内が著しく輻輳する。また、都道府県道以上のみとすると、東京都内は見やすいが、地方が多少物足りなくなる。以下の図は都道府県以上と 4 車線以上で表記した例である。

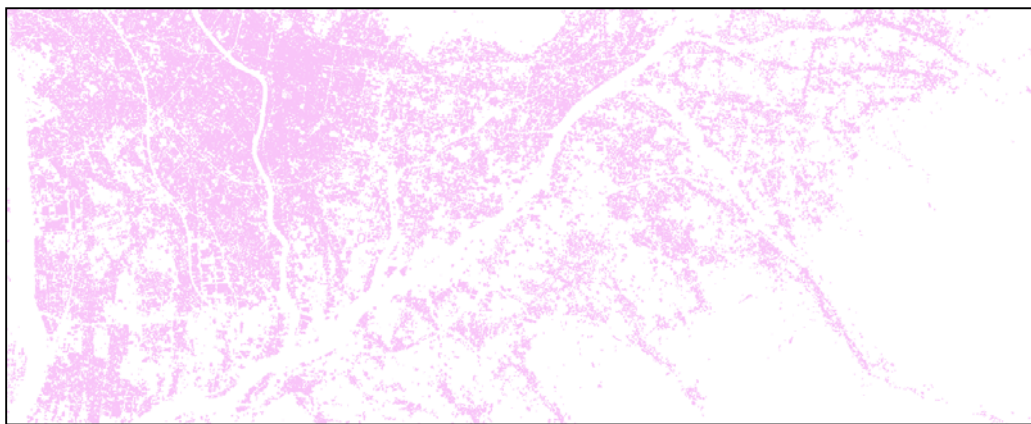
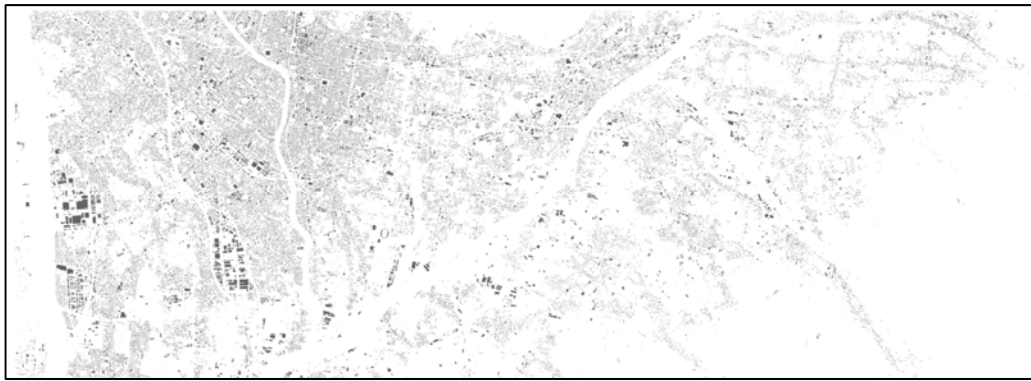


東京都の高速道路、国道、県道+4車線以上を表示したイメージ



甲府の高速道路、国道、県道+4車線以上を表示したイメージ

- 鉄道
 - 新幹線属性を別途取得し、より小縮尺の地図にも対応できるようにする。
- 水涯線
 - 河川中心線及び水涯線に1級河川、2級河川の属性を新たに取得し、それらのみを表示する（図4-1-1）（注：今後作業を予定しており、資料4-2にはまだ反映していない）
- 建物
 - 個別の建物を小縮尺地図に記載する必要性は薄い一方で、市街地の分布を示すことは意義があると考えられることから、2万5千分1の建物（普通建物、堅ろう建物、高層建物）を画像化した薄めの色で表現する。



甲府の建物の表示イメージ（グレー表示・ピンク表示）

- 建物記号・植生記号
 - 記号の密度については従来の 20 万データの程度とすることが適当である。一方で、位置については 25000 レベルの情報から取得する考え方となる。
⇒20 万データの記号の近傍の 25000 レベルの同一記号を取得する。
- 注記
 - 2 万 5 千分の 1 からの取得が望ましいが、取捨選択が困難であることから、体系的に地名・注記データを整備するまでの当分の間、従来の 20 万分の 1 地勢図の情報をデジタル化したデータを使用する。
- 地形表記線、地形記号
 - 個別の詳細な地形を小縮尺地図に記載する必要性は薄い一方で、地形の概況を正しい位置で示すことは意義があると考えられる。そのため、崖等について、現行の 2 万 5 千分の 1 のデータを画像にして取得する。
- 転位

- 道路どうし、道路と鉄道など、「転位の候補」となる相互に近接した地物を自動的に抽出する。その上で、実際の転位データの取得は作業者が行う。（注：転位は今後作業を予定しており、資料４－２にはまだ反映していない）

以上をもとにして、電子国土基本図からデータを作製するとともに、電子地形図 20 万（仮称）としての提供イメージの検討を行っている（資料 4－2 のシリーズの地図）。

3. 提供予定時期

- 電子国土 Web. NEXT による試験提供開始
電子国土 Web. NEXT に 8 月から試験的にデータ提供を行う。
- 電子地形図 20 万、国土広域情報の提供、電子国土 Web. NEXT による本格提供
電子地形図 25000 のもととなる国土基本情報の販売再開の後、年内目途で提供を予定。正式提供前の試用版での提供についても検討中。

4. その他

20 万分の 1 レベルのベクトルデータを使用するだけで、道路管内図・河川管内図の下図としてある程度使える図が作成可能である（資料 4－2－3・4）。これをもとに行政機関のほか、実際に受注して作業を行っている業界団体等の意見を聞きつつ、管内図の下図として使用される地図・データとしての検討を行っている。

また、100 万分の 1 レベルのデータの出力形態についても検討中である（図 4－1－2 の内容で試作しているところ。）

1種水系・2種水系属性を入力し
それに該当する水涯線を表示した例

現状の水涯線



100万分の1サンプル図
【現行の印刷図】



【電子地形図100万（仮称）試作図（建物ピンクは名古屋付近のみ表示）】

